

# 在宅におけるターミナルケア

想いを引き継ぐ支援とは

看取り

在宅

家族

香川県高松市

通所介護事業所・守里苑デイサービス

介護職員・高市 佳英

和泉 安津砂

白藤 誠

E-mail Address [syurien@syurikai.com](mailto:syurien@syurikai.com) Fax 番号 087-845-3810

守里苑デイサービスは自立支援を目的としている。昼食ではセルフ形式で本人の自己決定を促し、生活の中でできるリハビリを中心に行い、人と人との繋がりを大切に支援している。他、サービスは365日提供できるようにしている。

## <取り組んだ課題>

「父がターミナルと診断されたが最期まで自宅で見守っていきたい」という家族の希望があったが、在宅で支援できる主治医やサービスはなかなか見つからなかった。このままでは病院で最期を迎えることになるという時、入院前に利用していた守里苑に相談があった。

相談受付後、職員の話し合いの中で、ターミナル期の人をデイサービスで受けて、もし状態が悪化した時に本当に対応できるのか、不安を感じるのと否定的な意見が多く挙げられた。家族の想いを受け止め、それに携わる職員の心がどのように変化し、看取りを実現することができたのか、実践を交えてここに報告する。

## <具体的な取り組み>

氏名 田中一郎さん（仮名）  
年齢 男性・83歳  
心不全・動脈血栓により下肢切断

状態の悪化、急変など常に不安はつきまとうが、細かい取り決めを確認することで対応していくことができると考え、以下のことを話し合った。

=デイサービスとしての対応=

- ①デイの送迎時の対応  
⇒同乗職員・状態把握・急変時の対応
- ②通いなれた雰囲気の中で過ごせる工夫  
⇒食事・入浴・褥瘡・雰囲気 etc
- ③急変時の対応  
⇒緊急連絡先・医師が到着するまでの対応
- ④心肺停止となり、警察官が検死に来た時の対応  
⇒聞き取り等に対応する職員

次に職員が家族・関係者と一緒に考え、悩みながらも進んでいけるように、以下のことに取り組んだ。

=本人を取り巻く関係者との連携=

- 家族の想いを職員間で共有する  
⇒送迎時・電話連絡などで本人の状態を伝えるとともに、家族の不安や希望を聞き、現場に持ち帰って、ケアに反映する。
- 主治医の方針の確認  
⇒在宅診療の主治医を探し、方針を確認した。  
⇒デイに通うリスクについて関係者の中で協議し、共通認識を持った。

## <活動の成果と評価>

利用から1週間後、田中さんは自宅で家族に見守られながら息を引き取った。家族も在宅で看取りを選んだことに納得している様子であった。

デイサービス全員で細かい取り決めを確認し、本人の過ごす環境を変化させながら現場で「ターミナルになっても今までの田中さんと同じように接すれば大丈夫」と、少しずつ後押しすることで、最初は不安だった職員も、前向きにターミナルケアに取り組むことができるようになった。

この取り組みを通して、田中さんを最期まで自宅で見守りたいという家族の想いに寄り添い、自然な形で「死」を迎えることを支援できたのではないかと思う。

## <今後の課題>

在宅でのターミナルケアにおいて、特別なサービスを使わず、関係者全員が同じ想いを共有し支援していくことで看取りは実現できるものである。これからも日々の延長上にあるターミナルをその人らしく迎えるために介護していきたい。